

泉 佐 監 第 6 4 号
平成 2 2 年 8 月 3 日

泉佐野市長 新田谷 修司 様

泉佐野市監査委員 明 松 優
同 中 村 哲 夫

平成 2 1 年度泉佐野市財政健全化審査意見について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第 3 条第 1 項の規定により、審査に付された平成 2 1 年度泉佐野市健全化判断比率並びにその算定の基礎となる事項を記載した書類を審査したので、次のとおり意見を提出します。

平成 2 1 年度 泉佐野市財政健全化審査意見書

1 審査の対象

(1) 実質赤字比率

普通会計に相当する一般会計及び特別会計（以下、「一般会計等と言う。」を対象とした実質赤字の標準財政規模に対する比率。

(2) 連結実質赤字比率

全会計を対象とした実質赤字（又は資金の不足額）の標準財政規模に対する比率。

(3) 実質公債費比率

一般会計等が負担する元利償還金及び準元利償還金の標準財政規模に対する比率。

(4) 将来負担比率

一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率。

2 審査の期間

平成 2 2 年 7 月 2 1 日から平成 2 2 年 7 月 2 9 日まで

3 審査の方法

市長から審査に付された健全化判断比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類が適正に作成されているかどうかを主眼として、財政担当者から説明を聴取して審査を実施した。

4 審査の結果

(1) 総括的意見

審査に付された健全化判断比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類は、いずれも適正に作成されているものと認められる。

(2) 個別的意見

(単位、 %)

健全化判断比率	平成 2 0 年度	平成 2 1 年度	早期健全化基準	財 政 再 生 基 準
実質赤字比率	—	—	12.36	20.00
連結実質赤字比率	26.42	—	17.36	40.00
実質公債費比率	18.4	19.6	25.0	35.0
将来負担比率	393.5	372.5	350.0	

実質赤字比率について

平成 2 1 年度も前年度と同様に一般会計等の実質収支額が黒字となったため、実質赤字比率は負の値 (- 0.07%) となっている。

連結実質赤字比率について

前年度の連結実質赤字比率は 26.42% で、早期健全化基準を上回っていたが、平成 2 1 年度は負の値 (- 7.26%) となっている。これは、第三セクター等改革推進債の活用により、宅地造成事業会計を廃止し、65 億円の資金不足額を解消したことによるものである。

実質公債費比率について

平成 2 1 年度の実質公債費比率は 19.6% となっており、前年度と比較して 1.2 ポイント悪くなっている。これは、実質公債費比率は 3 年間の平均値であるので平成 1 8 年度と平成 2 1 年度を比較すると、一般会計から病院事業会計への繰出金の増加により、公営企業の地方債の償還に充てたと認められる額が増加したことによるものである。また、早期健全化基準の 25% を下回っているが、悪化傾向にあり、良好とは言えない。

将来負担比率について

平成 2 1 年度の将来負担比率は 372.5% となっており、前年度と比較して 21 ポイントよくなっている。これは、市たばこ税の増収による標準財政規模の増加及び地方債償還等による公営企業債等繰入見込額の減少によるものである。

しかしながら、早期健全化基準の 350.0% と比較すると、これを上回っており悪い状態である。

(3) むすび

平成 2 1 年度は、将来負担比率を除く 3 指標について、早期健全化基準を下回ったが、今後、公債費負担が大きくなる。平成 2 2 年 2 月に策定された財政健全化計画を着実に実行されることを望むものである。